

学習活動と学校図書館・司書の役割

新潟県立三条高等学校司書 小阪幸江

<探究学習について>

本校では、2021 (R3) 年度から学校設定科目の「グローバル探究(以下、G探)」が始まった。図書館は従来から探究活動支援をしていたが、押木教諭の依頼により、2022 (R4) 年度入学生についてはG探に特化したオリエンテーションを考えて準備し、実施した。

○1学年時:第1回オリエンテーション(「現代の国語」の時間を利用)

- ・三条高校図書館の概要、利用方法(貸借、予約、リクエストなど)について
- ・本の探し方調べ方(分類のしくみや配架方法、課題解決のステップなど)について

○1学年時:第2回オリエンテーション(「G探」の時間を利用)

- ・本の探し方調べ方の復習
- ・リサーチ記録や参考文献の書き方、書誌事項の取り方、著作権について
- ・演習問題実習=SDGs目標に沿った資料検索。20問作成、2人に1問(合同でも単独でも可)。回答用紙は回収し、司書が添削して担任経由で返却した。

◎成果と反省点

- ・演習開始10分後にヒントタイムを設け、手を挙げた生徒にはヒントを与えたが、自力で頑張ろうと熱心に探索する子もいた。
- ・問題の難易度に差があり、本が容易に見つかる見つからない、書誌的事項が書きやすい書きにくいがあったようだ。
- ・書誌事項の抜き出しでは、発行年(出版年)の書き間違い、発行所(出版社)の書き間違いが多かった。最初の解説時や探索中にも声をかけたのだが、浸透していなかったと感じた。

○2学年時:オリエンテーション(「論理国語」の時間を利用)

- ・本の探し方調べ方の復習
- ・リサーチ記録や参考文献の書き方、書誌事項の取り方、著作権について

○資料の収集提供における連携

- ・他地区司書連絡会での先行実践(SDGsに関する本の紹介とリスト作成)に関する資料を入手できた。
- ・本地区司書連絡会の協議事項に、「SDGsに関する本の紹介」を取り入れてもらい、各校から情報をもらった。
- ・2022年度から新潟県立図書館の団体貸し出しが便利になり(冊数無制限、市立図書館経由で貸借可)、複数回利用させてもらった。

○資料を手にとってもらうための工夫

- ・探究学習の参考になる本、学び方の本を別置
- ・「SDGsに関する本」コーナーの設置
- ・新潟県におけるSDGs事例についての新聞記事と、県央地域の地場産業に関する新聞記事のスクラップ作成
- ・県央地域の各種パンフレットやリーフレットの収集と展示

<点検読書について>

前年度(3学年対象)に引き続き「点検読書」の選書と事前指導を押木教諭より依頼された。前年度は私にとっても初めての「点検読書」だったので、どういうものなのか、どんな形がいいのかなど入念な下調べと準備を行って実施した。生徒の反応がとてもよかったので、今回も押木教諭から授業のねらいや方法を聞いて取り組んだ。

○1学年:点検読書 <小説>

◎選書について

2学期ということもあり、テーマは『〇〇の秋』として、本を揃えやすい「スポーツ」「行楽」「芸術」「食欲・味覚」の4つの視点から合計50冊選書。低書架上に、表紙が見えるよう一列平置きにした。

◎事前指導について

オリエンテーション時と同様、書誌情報の取り方(奥付について等)の説明。

◎成果と反省点

- ・興味のある分野から楽しそうに本を選ぶ姿が見られ、「本も見た目が9割」だと感じたので、展示の工夫につなげたいと思った。
- ・選書後、静かに読みふける姿が印象深かった。
- ・書誌情報の取り方がまだまだ定着していない様子が見られた。
- ・全クラス終わった時点で、すべての本をそのまま平置きにして貸し出し可とした。待ちかねていた2年生だけでなく、他学年生徒も興味深そうに手に取ったり借りたりしてくれた。人気のあった本、あまり手に取られなかった本がわかり、選書等に活かせるデータがもたらえた。

○1学年:点検読書 <新書>

◎選書について

・探究学習に関連したテーマ「SDGs17の目標」に沿って50冊選書。5冊ずつ10テーブルに置いておく。

◎事前指導について

- ・「新書」とは何かを解説。
- ・書誌情報の取り方(奥付について等)の説明。

◎成果と反省点

- ・「新書とは何か」を話すにあたり作成した資料については、もっと簡潔にわかりやすくすべきだった。
- ・SDGs目標17+1(総合)で50冊選ぶのに苦労した。古い本は出来るだけ避けたかったが、目標によっては10年近く前の本を入れざるを得なかった。他館資料を利用することも考えた方がよかった。
- ・資料不足分野を知ることができ、その後の選書に活かすことが出来た。
- ・初めて新書を手にする生徒が多かったのではないかと思われるが、選定時のざわめきから一転、静かに読みこんでいる姿に驚いた。
- ・全クラス終了後一括展示して貸し出し可としたところ、「読み切れなかったので」「興味のある分野の本があったので」と借りに来る生徒がしばしば見られた。

○2学年:夏休み課題、読書レポート・POPの作成の準備

- ・読書レポートの選書相談や貸し出しを行った。
- ・POP作成に合わせて、資料の選定相談や貸し出しを行った。

○2学年:点検読書 <新書>

◎選書について

自由選書。各自、進路に関係する本を選んだ。

◎事前指導について

- ・「新書」とは何かを解説。
- ・分類の説明と、新書の配架位置(分類0～3と9はカウンター付近に別置、4～8は一般書架にそれぞれ別置)の確認。
- ・1学年時と同様、書誌情報の取り方(奥付について等)や本の構成について説明。

◎成果と反省点

- ・1学年時から何度も説明している「書誌情報の取り方」がしっかり身につけている生徒とそうでない生徒がいた。繰り返しの必要性を改めて感じた。
- ・1学年時のように、点検作業の後、グループ内で点検項目を確認したり本を紹介したりする時間があればよかったのではないだろうか。書誌情報の取り方の間違いに気づいたり、ディスカッションによってアウトプットの効果が得られたりするのではないかと思った。
- ・点検読書に関するアンケートを取ってみればよかったかもしれない。(点検のお役立ちポイントやこれから読んでみたい新書のジャンル、テーマなど)
- ・探究の時間にも「新書」を探す様子が見られ、新書に馴染む良い機会だったことを実感した。

<その後の図書館状況>

現2学年は、2学期から3学期にかけて保健体育の調べ学習で図書館を利用する予定が組まれている。開始当初からタブレットの利用とともに本を探す姿が見られ、頼もしい限りだ。

本の貸し出しそのものは劇的に伸びているとまでは言えないが、生徒たちは探究学習によって学び方を学び、国語の授業で読む体験・点検の経験を得て、図書館とその資料の利用習慣は着実に身に付いてきているのではないかと感じる。

「点検読書」は私にとって初めてのことばかりで、押木教諭の熱意に圧倒されつつ準備したが、押木教諭の望むような共同作業がうまく出来たかはなんとも心許なく、申し訳ない思いが残っている。また、押木教諭とだけでなく担当するすべての教員とも事前の打ち合わせをもっとしっかりしておくべきという反省点も残った。

しかし、点検読書中の机間巡視やカウンターでのやりとりのおかげで、司書と生徒との距離は確実に縮まった。選書やレファレンス等に大いに役立つ新たな発見や気づきをもたらすことも多々あり、大変得がたい経験だった。

今後も、学校図書館と学校司書は生徒の学びを支える、という心構えで邁進していきたい。